

2018年9月1日

Value Management Innovation

株式会社ブイ・エム・アイ総研

「活・人・経・営[®]」コラム第70回

＜組織に元気を呼び込むリーダー＞

三大経営資源として「ヒト・モノ・カネ」が一般的には挙げられます。ヒトは知力や労働力、モノは製品や生産設備、カネは自己資本金や借入金などを含めた運転資金などをイメージしています。最近では、「情報・技術」などの見えない資源も重要視され、経営資源としてこれらに加えられてきました。

ところが、ヒトの価値は他の経営資源とひとくくりにはできません。出来なくなって参りました。モノやカネを生み、活用するのはヒトの知恵や行動力で、情報や技術などを生かすも殺すもヒト次第だからです。「企業は人なり」の所以です。

最近、ITの進化が加速度的にスピードアップされ、「時間」が新たに経営資源としてクローズアップしてきました。この時間をうまく生かしている企業の共通点として、イノベーションを促すリーダーが存在することです。リーダーが経営環境の変化にスピード感を以って真剣に対応していると、ヒトは自分の属する組織に未来性を感じ、安心感も芽生え、事業の成長に役立ちたくなる自主的な思いが強くなり、前向きな元気が出てくるようです。

組織が活性化され、自主・自律的な風土が芽生えてくると、経営全体にスピード感が増し、生産性が向上し、「時間」という経営資源が大きく生かされてきます。この時、「人材」は、単に組織の労働力としての「人在」や、組織のお荷物的な「人罪」ではなく、市場に自ら変化を創り出すことができるイノベーション「人財」に変化してきます。

＜リーダーは、長期的、大局的、本質的視点を備えたい＞

経営は未来というゴールからみて思考し、行動しなければ結果を残せない。人材育成やビジョンという中・長期の視点、経営全体を俯瞰する大局的視点、すべてのことに通じる本質的視点を持たないと、持続可能な利益を生み出せず、未来への展望が描けない。企業の成長は絶えざる日々の積み重ねで成り立ち、倒産への道は一瞬で決まる。これが現実。

— 出典：「イノベーションが咲く＜活・人・経・営＞36の核心ポイント」

水野修著 —